

FI コン PLUS (R-Stage 用 106cc 対応) 取扱説明書

製品番号 05-04-0046

適応車種	Monkey (FI) (AB27-1900001 ~)
	(AB27-2000001 ~)
	(AB27-2100001 ~)
	(AB27-2200001 ~)

この度は、弊社製品をお買い上げ頂きまして有り難うございます。

使用の際には下記事項を遵守頂きますようお願い致します。取り付け前には、必ずキット内容をお確かめ下さい。

万一お気付きの点がございましたら、お買い上げ頂いた販売店にご相談下さい。

◎イラスト、写真などの記載内容が本パーツと異なる場合がありますので、予めご了承下さい。

～特徴～

○ Monkey (FI) に、弊社製 R-Stage シリンダーヘッドを取り付ける際に必要となる、FI コン PLUS と、大容量フューエルインジェクタのセットです。

○ 内部に弊社オリジナルの点火マップ及び燃料噴射マップを持つ事により、R-Stage ヘッドが持つ性能を、フルに引き出すことが出来ます。

○ 本体にロータリースイッチを3つ備えており、それぞれのスイッチにより、

SW1 : エンジンリミッター回転数の設定 (7000rpm ~ 16000rpm の16段階設定)

SW2 : エンジン仕様別燃料噴射・点火タイミングマップの設定

SW3 : 選択したマップの補正 (-10 % ~ +20 % の16段階設定)

といったセッティングが可能となります。

☆ご使用前に必ずお読み下さい☆

◎取扱説明書に書かれている指示を無視した使用により、事故や損害が発生した場合、弊社は賠償の責を一切負いかねます。

◎当製品を取り付け使用し、当製品以外の部品に不具合が発生しても当製品以外の部品の保証は、どのような事柄でも一切負いかねます。

◎当製品を加工等された場合は、保証の対象にはなりません。

◎他社製品との組み合わせのお問い合わせはご遠慮下さい。

◎当製品は、上記適応車種の車両専用用品です。他の車両には取り付け出来ませんのでご注意ください。

◎補修部品につきましてはリペア品番にてお申し込み下さい。尚、不明な点がございましたらお買い求め販売店にお問い合わせ下さい。

◎取り付けの際には、工具等を準備し、取付け要領に従って十分注意して作業を行って下さい。

尚、この取扱説明書や純正サービスマニュアルは、基本的な技能や知識を持った方を対象としております。

取り付け等の経験の無い方、工具等の準備が不十分な方は、技術的信用のある専門店へ、取り付け作業を依頼されることをお勧め致します。

◎レブリミッターは12000rpmを超える設定も可能ですが、弊社エンジンの許容回転数を超過する為、12000rpmを超える設定を使用する場合は、自己責任に於いてご使用下さい。

●ご使用にあたっての注意点

◎併用出来ない部品について。

社外品の H.I.D キットはバラスト / インバーター (電圧変換装置) からデジタル回路に悪影響を与える高電圧ノイズが出る場合がほとんどで、製品故障や動作不良の原因となりますので、絶対に同時装着しないで下さい。

社外品の点火装置 (イグニッションコイルやプラグコード) は点火電圧のアップに伴う、放射ノイズの増大により誤動作や製品故障の原因となりますので使用しないで下さい。

社外品の発電装置は発電量の不足や電圧波形の違いにより故障の原因となりますので、使用しないで下さい。

! 注意 この表示を無視した取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害が想定される内容を示しています。

■ 一般公道では、法定速度を守り違法運転を心掛けて下さい。

(法定速度を越える速度で走行した場合、運転者は道路交通法、速度超過違反で罰せられます。)

■ 作業等を行う際は、必ず冷間時 (エンジン及びマフラーが冷えている時) に行ってください。(火傷の原因となります。)

■ 作業を行う際は、その作業に適した工具を用意して行って下さい。(部品の破損、ケガの原因となります。)

■ 規定トルクは、必ずトルクレンチを使用し、確実に作業を行ってください。(ボルト及びナットの破損、脱落の原因となります。)

■ 製品及びフレームには、エッジや突起がある場合があります。作業時は、手を保護して作業を行ってください。(ケガの原因となります。)

■ 走行前は、必ず各部を点検し、ネジ部等の緩みがないかを確認し緩みがあれば規定トルクで確実に増し締めを行ってください。

(部品の脱落の原因となります。)

! 警告 この表示を無視した取り扱いをすると人が死亡、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

■ FI コン PLUS を装着すると、サイドスタンドを出したままギアシフトしてもエンジンが停止しなくなります。発進前には必ずサイドスタンドを格納して下さい。(転倒や事故の原因となる恐れがあります。)

■ エンジンを始動させての点検は、必ず換気の良い場所で行ってください。密閉した様な場所では、エンジンを始動させないで下さい。(一酸化炭素中毒になる恐れがあります。)

■ 走行中、異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停止させ、走行を中止して下さい。(事故につながる恐れがあります。)

■ 作業を行う際は、水平な場所で車両を安定させ安全に作業を行ってください。(作業中に車両が倒れてケガをする恐れがあります。)

■ 点検、整備は、取扱説明書又は、サービスマニュアル等の点検方法、要領を守り、正しく行って下さい。

(不適当な点検整備は、事故につながる恐れがあります。)

■ 点検、整備等を行った際、損傷部品が見つければ、その部品を再使用する事は避け損傷部品の交換を行ってください。(事故につながる恐れがあります。)

■ 製品梱包のビニール袋は、幼児の手の届かない所に保管するか、廃棄処分して下さい。(幼児がかぶったりすると、窒息の恐れがあります。)

◎性能アップ、デザイン変更、コストアップ等で製品および価格は予告無く変更されます。予めご了承下さい。

◎クレームについては、材料および加工に欠陥があると認められた製品に対してのみ、お買い上げ後1ヶ月以内を限度として、修理又は、交換させて頂きます。ただし交換工賃等の一切の費用は対象となりません。正しい取り付けや、使用方法など守られていない場合は、この限りではありません。

なお、レース等でご使用の場合は、いかなる場合もクレームは一切お受け出来ません。予めご了承下さい。

◎この取扱説明書は、本製品を破棄されるまで保管下さいます様お願い致します。

株式会社 スペシャルパーツ 武川

〒584-0069 大阪府富田林市錦織東3-5-16

TEL:0721-25-1357 FAX:0721-24-5059 URL <http://www.takegawa.co.jp>

製品内容



番号	部品名	数量	リペア品番
1	FI コン PLUS ASSY.	1	_____
2	フューエルインジェクタ ASSY.	1	00-00-0271
3	サブハーネス -2 COMP.	1	00-05-0042
4	リセプタクルキャップ (ギボシメス スリーブ)	4	00-00-0270 (5set)
5	プラグキャップ (ギボシオス スリーブ)	4	
6	プラグ (ギボシオス端子)	4	
7	リセプタクル (ギボシメス端子)	4	
8	マジックテープ	1	00-00-0150
9	タイラップ 200mm	2	00-00-0269 (10 ケ入り)
10	タイラップ 150mm	4	00-00-0135 (10 ケ入り)
11	キャップ φ 15.5	1	00-00-0284
12	キャップ φ 18	1	00-00-0285
13	キャップ φ 19	1	00-00-0286
14	キャップ φ 25	1	00-00-0287

※リペアパーツは必ずリペア品番にてご発注下さい。

品番発注でない場合、受注出来ない場合もあります。予めご了承下さい。

尚、単品出荷出来ない部品もありますので、その場合はセット品番にてご注文下さいませ、お願い致します。

■取り付け要領 ※特に記載の無い細部の取り付け方法や規定トルクにつきましては、純正サービスマニュアルを参照して下さい。

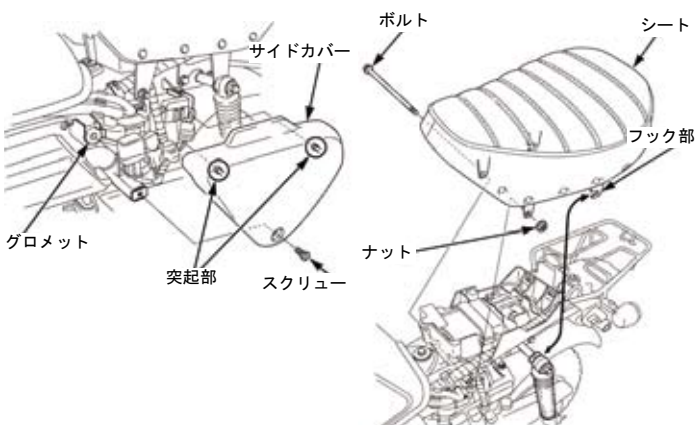
■はじめに

本商品は、純正のPGM-FIシステムが問題なく作動している事を前提として開発されています。

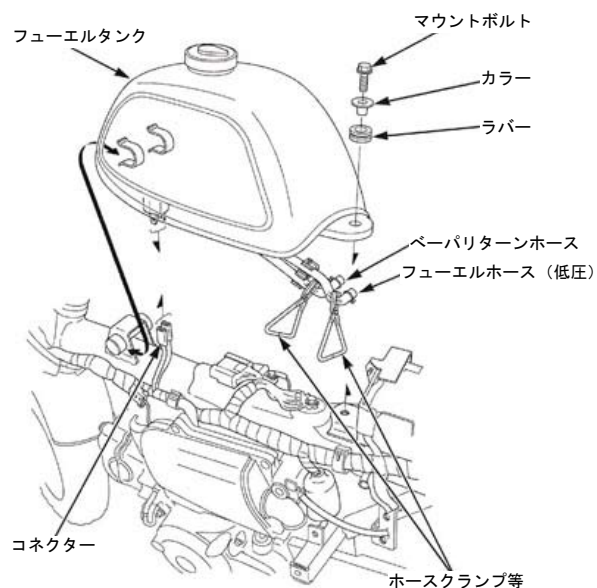
PGM-FIシステム自体にトラブルや不調がある場合は、本商品を取り付けても正しく作動しなかったり、性能が発揮出来ないばかりでなく、他の箇所が故障する原因にもなりかねませんので、必ずPGM-FIシステムにトラブルが無い事を確認の上で、取り付け作業を行って下さい。

■純正部品の取り外し

1. 水平で安全な場所で、メンテナンススタンド等を用いて車両を安定させます
2. 純正サービスマニュアルを参照し、下記作業を行います。
 - ・左サイドカバーとシートを取外します。



- ・バッテリーからバッテリーコネクターを外しておきます。
- ・フューエルラインに掛かっている燃料圧力を抜きます。
- ・フューエルタンクを取り外します。



■取り付け要領 ※特に記載の無い細部の取り付け方法や規定トルクにつきましては、純正サービスマニュアルを参照して下さい。

・純正インジェクタの2P カプラと、ボルトを2本取外して、純正インジェクタを取り外します。



=ポイント=

別売のビッグスロットルボディキットをお使いの場合は、この段階で交換作業を行って下さい。

■ FI コン PLUS の取り付け

1. 本キット付属のインジェクタの両端に付いているラバーキャップを外し、Oリング部にエンジンオイルを塗布します。外したラバーキャップは純正インジェクタに取り付け、車両をノーマルに戻す際に使用出来るように保管しておいて下さい。



2. インジェクタを、純正インジェクタジョイントに取り付けます。
3. 車両のインテークマニホールドに、インジェクタ/インジェクタジョイントを取り付け、ボルト2本を規定トルクで締め付けます。

▲警告：必ず純正フューエルインジェクタジョイントマウントボルトを使用して下さい。不適切なボルトの使用は、純正インジェクタジョイント脱落の原因となり、重大な事故につながる恐れがあります。

▲警告：ガソリンは、非常に引火しやすい為、一切の火気を避け燃えやすい物が回りに無い事を確認して下さい。又、気化したガソリンの滞留は、爆発等の危険性がある為、通気の良い場所で作業を行って下さい。

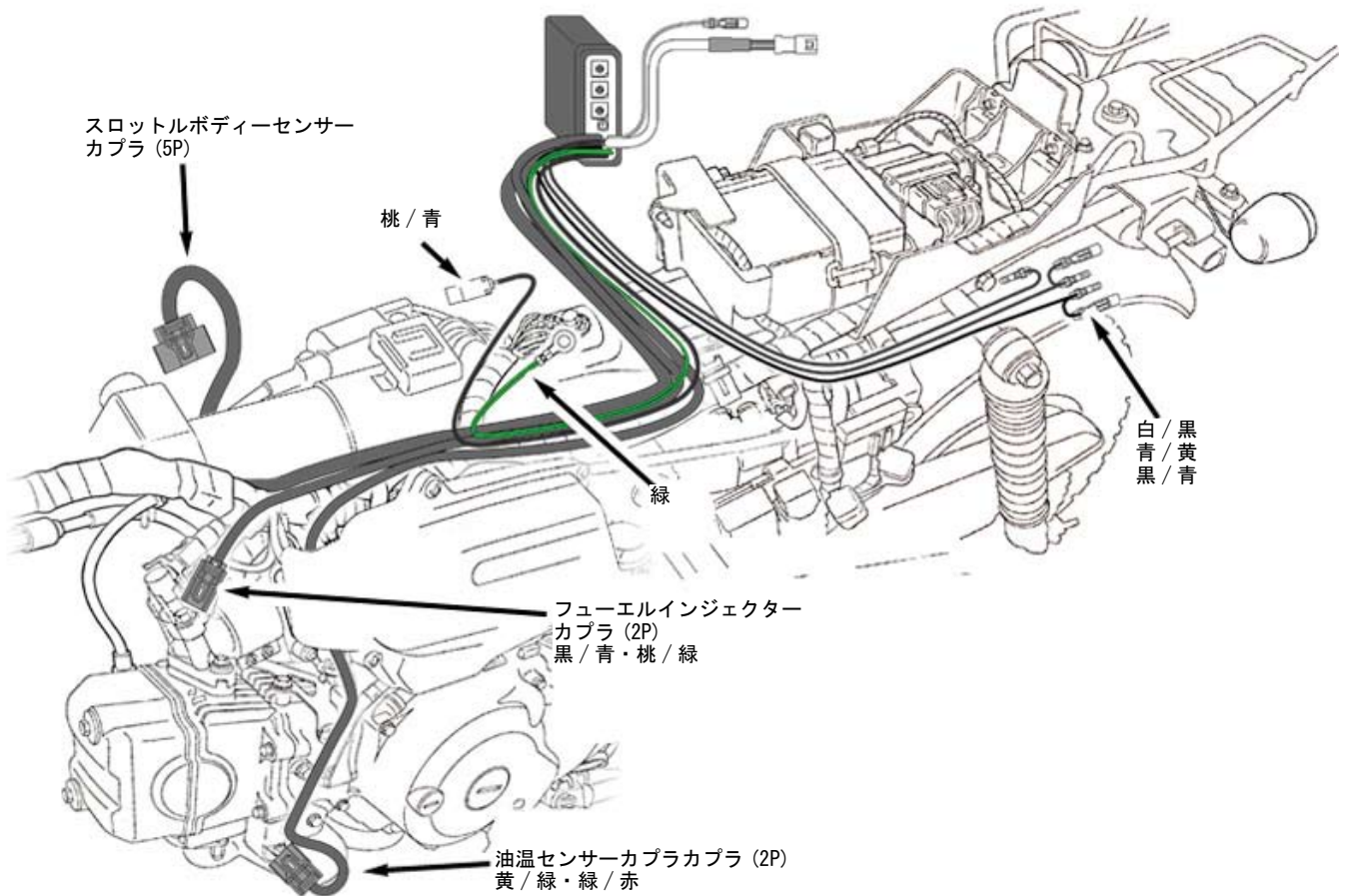
▲注意：フューエルラインのクイックコネクターは外しませんが、ホースが折れ曲がらない様に作業して下さい。

3. 純正ハーネスの、スロットルボディセンサーカプラ (5P) ・油温センサーカプラ (2P) ・イグニッションコイルに接続されている桃/青ハーネスは使用しませんので、それぞれ接続を外します。
4. スロットルボディセンサーカプラ (5P) にキャップφ 25、油温センサーカプラ (2P) にキャップφ 18 を被せ、桃/青ハーネスと共にフューエルタンク下等に引き込み、タイラップで固定するなどして、車両をノーマルに戻す際に使用出来るようにしておきます。

▲注意：使用しない配線類もノーマルに戻す際は必要になりますので、切断しないで下さい。

▲注意：必ず規定トルクを守る。
ボルト
トルク：12N・m (1.2kgf・m)

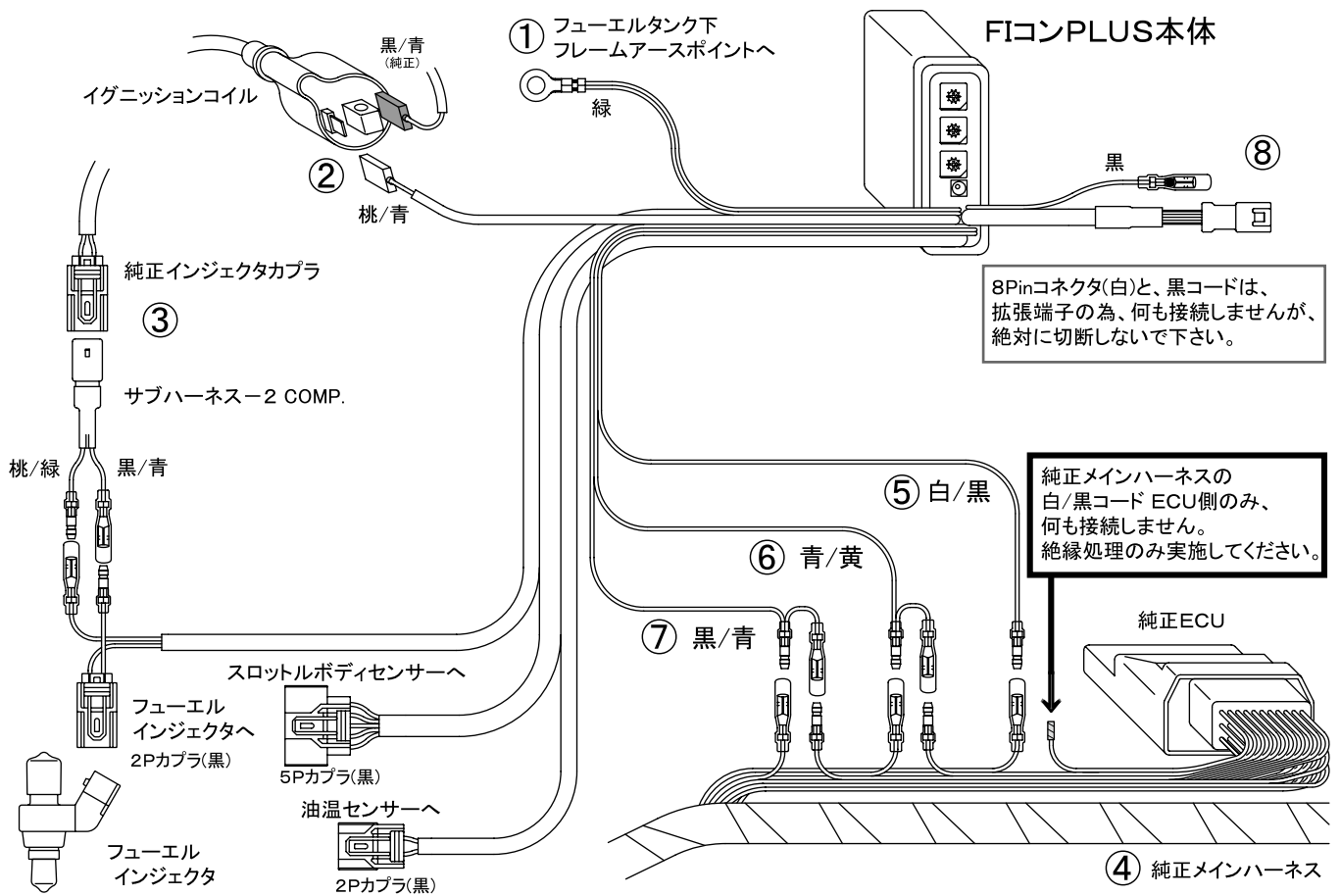
4. FI コン PLUS の配線作業を行います。まずは図を参照しながら各ハーネスを車両に這わせませす。



5. 図中番号の順に、注釈を確認しながら作業を行なって下さい。

なお、本取扱説明書中のコード色表記は、ベース色 / ライン色としています。

白 / 黒という表記のコードは、白色の被覆に黒色のラインが入っているコードを表します



① フレームアース

純正ハーネスのアース端子が、フレームの1箇所集合して接続されている部分（フューエルタンク下側）に、共締めします。

② イグニッションコイル

純正の黒 / 青ハーネスは接続したまま、純正の桃 / 青ハーネスをFIコンPLUSの桃 / 青ハーネスに差し替えます。
（取り外した純正の桃 / 青ハーネスには何も接続しません。）

③ 純正インジェクタハーネス

FIコンPLUS本体のフューエルインジェクタへ接続する2Pカブラ部分のギボシ端子に、キット付属のサブハーネス-2 COMP. を接続し、サブハーネスのカブラを純正ハーネスのインジェクタハーネスカブラに接続します。

④ 純正メインハーネス

シート下部にて、純正ハーネスから純正ECUへ分岐している配線束がありますが、ギボシ端子を取り付け出来る様に、配線を束ねているビニールテープ等を切り開いて取り除きます。

⑤ 白 / 黒コード

純正ハーネスの白 / 黒コードを切断し、メインハーネス側のみメスギボシ端子を取り付け、FIコンPLUSの白 / 黒コードと接続します。

★重要★ 純正ECU側には何も接続しません。ビニールテープを巻くなどしてショート等しない様に絶縁しておきます。

⑥ 青 / 黄ハーネス

純正ハーネスの青 / 黄ハーネスを切断し、純正ECU側にオスギボシ端子を取り付け、メインハーネス側にメスギボシ端子を取り付け、FIコンPLUSの青 / 黄ハーネスを両方とも接続します。

⑦ 黒 / 青ハーネス

純正ハーネスの黒 / 青ハーネスを切断し、純正ECU側にオスギボシ端子を取り付け、メインハーネス側にメスギボシ端子を取り付け、FIコンPLUSの黒 / 青ハーネスを両方とも接続します。

⑧ 8Pin白コネクタ・黒ハーネス

8Pin白コネクタと黒ハーネスは拡張端子の為、現在は何も接続しませんが、絶対に切断しないで下さい。

○フューエルインジェクタ・スロットルボディセンサー・油温センサーの各カブラを、それぞれ確実に接続します。

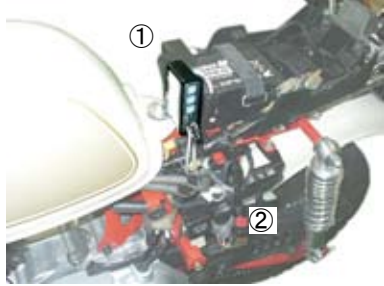
■取り付け要領 ※特に記載の無い細部の取り付け方法や規定トルクにつきましては、純正サービスマニュアルを参照して下さい。

6. 配線を接続し終わりましたら、間違いがないか確認し、問題なければバッテリーコネクタを接続します。

⚠ 警告：フューエルタンクへの配管を接続するまでは、絶対にキーをONにしないで下さい。
ガソリンがフューエルポンプから噴出する恐れがあります。

7. FI コン PLUS 本体は、写真内①の様にバッテリー前部にキット付属のマジックテープで固定するか、写真内②の左サイドカバー内に、タイラップで固定して下さい。

⚠ 注意：固定する際はなるべく雨等の水が掛かりにくい場所を選び、又、水等がスイッチ内に浸入しにくい様に、FI コン PLUS 本体のロータリースイッチが上（天）を向かない様に固定して下さい。



8. 弊社製バッテリーケースキットを併用される場合、車両左側に移設されたバッテリーケース前部やフューエルタンクとフレームの隙間等に設置して下さい。

⚠ 注意：FI コン PLUS の配線等が、チェーンやドライブプロケットに巻き込まれたりしない様に、配線を適切に取り回して固定して下さい。



9. タイラップで適宜配線を固定し、フューエルタンクとシートを元通り組み付けます。

■動作確認

1. 配線に問題がないか、一度イグニッションキーをONにします。キーをONと同時に、下記動作が行われているか確認して下さい。
・エンジンチェックランプが1秒程度点灯して消える。
・フューエルポンプが2～3秒程度作動する。

⚠ 注意：キーをONにするだけで、エンジン始動はしないで下さい。

2. 上記の通り作動している場合は、次の項目 [初期設定] に進んで下さい。上記の通り作動しない場合は、下記項目に従い点検を行って下さい。問題が解決しなければエンジンは始動しません。

- ・キーONでFI コン PLUS 本体の電源LED（緑色）が点灯しない場合
→バッテリーコネクタの接続を確認する。
→バッテリー電圧が正常か確認する。
→ヒューズが切れていないか確認する。
- ・エンジンチェックランプが点滅し続ける場合
→油温センサーカブラが抜けていないか確認する。
- ・エンジンチェックランプが2回点滅する場合
→バッテリーの電圧が低い場合（約11V以下）は、2回点滅します。バッテリーの状態を点検し、必要に応じて充電若しくは交換して下さい。
- ・エンジンチェックランプが点灯しない場合
→白/黒の配線が、切断したメインハーネス側に正しく接続されているか確認する。
→エンジンチェックランプが球切れしていないか確認する。
- ・エンジンチェックランプを純正以外の物に変更している場合、
→純正のエンジンチェックランプで再確認して下さい。
- ・フューエルポンプが動作しない場合
→燃料圧力を抜いた際に、フューエルポンプの2Pカブラが外れたままになっていないか確認する。

■初期設定（スロットルポジションセンサーの学習）

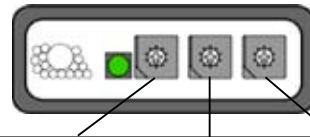
・車両に取り付けた初回や、スロットルの全閉位置を調整した場合等は、スロットルポジションセンサーの全閉・全開位置を内部メモリに学習する作業が必要になります。
下記手順に従って作業を行って下さい。

1. キーがOFFになっている事を確認し、油温センサーカブラをセンサーから外し、何も接続しない状態にします。
2. キーをONにします。
3. エンジンチェックランプが点滅し続ける事を確認して下さい。（約2秒間隔で点灯・消灯を繰り返します）
4. スロットルをゆっくりと全開にし、全開のまま5秒程度保持し、ゆっくりと全閉に戻します。
5. 油温センサーカブラをセンサーに接続します。
6. エンジンチェックランプの点滅が止まり、消灯する事を確認して下さい。
7. キーを一度OFFにします。
8. 以上の作業でスロットルポジションセンサーの全閉・全開位置を学習します。

！ポイント！学習した内容はバッテリーの接続を外しても消えませんが、作業は基本的に初回のみですが、何らかの要因によりFI コン PLUS の作動が不安定に陥った場合、上記学習作業を再度行う事でトラブルが解消される場合があります。

■ロータリースイッチの設定

・FI コン PLUS はロータリースイッチを3個搭載しており、それぞれリミッター回転数・マップの種類・マップの補正値を設定する事が出来ます。下記表を参照し、ご使用になるエンジン仕様に合わせて設定を行って下さい。



	SW1	SW2	SW3
設定	リミッター回転数の選択	マップの選択	燃料マップの補正量
0	7000	-	-10 %
1	8000	R10S	-8 %
2	9000	R10BB	-6 %
3	10000	R10BZ	-4 %
4	10500	-	-2 %
5	11000	106S	0 (基準)
6	11500	106BB	+2 %
7	12000	106BZ	+4 %
8	12500	-	+6 %
9	13000	-	+8 %
A	13500	-	+10 %
B	14000	-	+12 %
C	14500	-	+14 %
D	15000	-	+16 %
E	15500	-	+18 %
F	16000	-	+20 %

マップの種類—適応エンジン仕様

マップの種類	排気量	適応スロットルボディ	適応マフラー
R10S	88cc	純正	Basic・ボンバー・Z-Style
R10BB	88cc	ビッグスロットル	Basic・ボンバー
R10BZ	88cc	ビッグスロットル	Z-Style
106S	106cc	純正	Basic・ボンバー・Z-Style
106BB	106cc	ビッグスロットル	Basic・ボンバー
106BZ	106cc	ビッグスロットル	Z-Style

※シリンダーヘッド及びカムシャフトは、弊社製 R-Stage ヘッドと付属の F-10 カムをお使い下さい。

※エアフィルターは、全て弊社製エアフィルターをお使い下さい。R-Stage ヘッドに純正エアフィルターボックスは使用出来ません。

⚠ 注意 1：12000rpm を超える設定は、弊社エンジンの許容回転数を超える為、ご自身の責任に於いてご使用下さい。オーバーレブによるトラブルは、一切クレームの対象となりませんのでご注意ください。

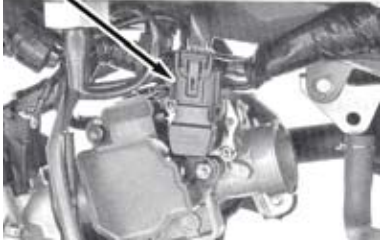
⚠ 注意 2：マップの内容が [-] となっている物を選択した場合、エンジンは始動しません。

⚠ 注意 3：マップ補正量は、全域に反映されます。特に減量側（マイナス側）の設定は、エンジン仕様によってはトラブルの原因となりかねませんので、A/F 計を取り付けた上で、慎重にご使用下さい。減量側の設定は、エンジンセッティングに関する知識の無い方は使用しないようにして下さい。

■ IACバルブについて

1. IACバルブの4Pカブラが正しく接続されている事を確認し、キーをONにすると、数秒間IACバルブの作動音がします。

4P(黒)カブラ



2. 作動音がしなくなったら、キーをOFFにし、IACバルブの4P(黒)カブラの接続を外し、IACバルブのカブラ部にキャップφ15.5、ハーネス側のカブラにキャップφ19を被せて、カブラ開口部を塞いでおきます。



▲ 注意：FIコンPLUS使用時は、IACバルブを使用しませんが、何らかの理由により動作不調になった場合や、スロットルボディを交換した場合等には、再度接続する必要がありますので、ハーネスは切除しないで下さい。

▲ 注意：FIコンPLUSは、純正のIACバルブを利用せずアイドリング回転数を制御しますので、IACバルブのカブラは外したままで使用します。
FIコンPLUS使用時に、IACバルブを動作させるとアイドリングが不安定になったり、低くなりすぎたりします。

■ 始動確認

▲ 警告：エンジンを始動させての点検は、必ず換気の良い場所で行って下さい。密閉した様な場所では、エンジンを始動させないで下さい。(一酸化炭素中毒になる恐れがあります。)

1. ここではまず、設定をSW1...0/ SW2...エンジン仕様に合わせて設定/SW3...5と設定します。
2. キーをONにし、フューエルポンプの作動音が止まればキーをOFFにする作業を数回繰り返します。
(フューエルラインのガソリンが抜けている為、ガソリンを送り込みます。)
3. キーをONにしエンジンを始動します。

▲ 注意：始動時は、スロットルを全閉～微開にて行って下さい。
スロットルを開けながらキックしても、エンジンは始動しません。

4. エンジンが始動したら、エンジン油温が約70°C以上になるまでしっかりと暖機します。
5. アイドリング回転数を確認します。
規定アイドリング回転数：88cc...1800rpm ± 100rpm
106cc...1900rpm ± 100rpm
アイドリング回転数が規定から外れている場合は、アイドリング調整の項目を参照し、調整を行って下さい。

▲ 注意：必ず完全に暖機した後に確認を行って下さい。

■ アイドリング調整

1. スロットルボディ右側(マフラー側)のスクリー2本を取り外し、カバーを取り外します。

スクリー カバー



2. スロットルボディのストッパースクリー(白色ペイントで固定されているスクリーとナット)を固定しているナットを緩め、スクリーを1/8回転程度ずつ回転させ、ナットを締め付けます。
スクリーを締め込む方向に回転させるとアイドリング回転数は上がり、スクリーを緩める方向に回転させるとアイドリング回転数は下がります。



▲ 注意：マフラーやエンジン等で火傷をする恐れがありますので、作業は冷間時に行ってください。

3. スロットルポジションセンサーの学習作業を再度行います。

▲ 注意：スロットルの全閉位置が変わった場合は、必ず毎回スロットルポジションセンサーの学習作業を行ってください。

4. エンジンを始動しアイドリング回転数を確認します。
規定アイドリング回転数になるまで、上記2～4の作業を繰り返して調整を行って下さい。

▲ 注意：ストッパースクリーを締め込み過ぎても、逆にアイドリングは安定しなくなります。

▲ 注意：走行後等にアイドリング回転数が高めになってしまう場合は、アイドリング調整を行った時のエンジン暖機が不十分だった事が原因として考えられます。
スクリーを緩める方向に回転させて、再度スロットルポジションセンサーの学習を行い、アイドリング回転数の確認を行って下さい。

■トラブルシューティング

FI コン PLUS 取り付け後、不具合をお感じになりましたら、まずは下記表から、該当する症状に応じた項目を点検して下さい。

不具合症状	点検箇所 → 対処方法
エンジンが始動しない	<p>エンジンの組み付け自体に問題はありませんか？ →エンジンが正しく組み付けられているか、バルブタイミングやタペットクリアランスに問題が無いか確認して下さい。</p> <p>キー ON 時に、FI コン PLUS 本体の緑 LED が点灯し、純正のエンジンチェックランプが1秒程度点灯した後、消灯していますか？ →本取説5ページ目 ■動作確認 の項目に従い、配線を点検して下さい。</p> <p>エンジン組み付け後、初めての始動ですか？ →フューエルインジェクタを脱着している為、フューエルライン内にエアが残っている場合があります。その為、初回始動時はエンジンが始動しにくい場合があります。しばらくキックしてもエンジンが始動しない。 →一度キーを OFF にし、再度キーを ON にしてから、始動してみてください。 スロットルを開けながら始動していませんか？ →FI コン PLUS はクラッキング時に発生する吸気負圧を制御に利用していますので、スロットルを開けながら始動しても、エンジンは始動しません。必ず全閉～微開にて始動を行って下さい。</p>
アイドリングが持続せず、ストールする	<p>初期設定（スロットルポジションセンサーの学習）を実施されましたか？ →初期設定を再度実施してみてください。アイドリング調整を行った場合も、毎回必ず実施して下さい。</p> <p>マップ選択スイッチや、マップ補正スイッチが適正なセッティングになっていますか？ →スイッチの設定を再確認して下さい。特にマップ補正スイッチは5番が基準となっていますので、ご注意ください。</p> <p>IACバルブの接続を、正しく外していますか？ →FI コン PLUS は、純正の IAC バルブのカプラを外したままで使用します。必ず、キーを ON にし作動音がなくなった状態でカプラの接続を外し、外したままでご使用下さい。</p>
スロットルを開けても回転が上がらない / アイドリングするが、スロットルを開けるとストールする	<p>初期設定（スロットルポジションセンサーの学習）を実施されましたか？ →初期設定を再度実施してみてください。アイドリング調整を行った場合も、毎回必ず実施して下さい。</p> <p>リミッター回転数の設定スイッチは問題ありませんか？ →SW1 のリミッター回転数の選択次第では、7000rpm からリミッターがかかります。選択されている設定に問題がないか確認して下さい。</p>
エンジンチェックランプが、7回・8回・9回点滅 / エンジンチェックランプが、不規則な点滅をする	<p>FI コン PLUS 本体は、このような故障表示パターンを出力しない仕様になっています。メインハーネスの白 / 黒コードを切断した後、純正 ECU 側のコードも接続されている可能性があります。</p> <p>本取説4ページ目、⑤白 / 黒コードの接続部分を再点検し、純正 ECU 側のコードには何も接続されていない事を確認して下さい。</p>
エンジンが始動せず、エンジンチェックランプが点滅もしくは点灯し続ける。	<p>取り付け当初は問題なく、使用中からこのような症状が発生した場合は、FI コン PLUS が動作出来ない異常（センサーハーネスの断線など）が発生している可能性があります。速やかに使用を中止し、チェックランプの点灯・点滅パターン及び、どのような時に点灯・点滅しただしかをお手元にお控え頂いた上で、弊社までお問合せ下さい。</p>
エンジンは始動出来、走行も出来るがエンジンチェックランプが点灯し続ける。	<p>取り付け当初は問題なく、使用中からこのような症状が発生した場合は、⑤白 / 黒コードがどこかフレーム等でショートしている可能性があります。この場合は、キー ON にした段階でチェックランプが点灯したままになり、油温センサーカプラを抜いても、初期設定の点滅になりません。</p>
点火プラグに火花が飛んでいない。	<p>点火プラグはシリンダーヘッドに取り付けてありますか？ →点火プラグを抜いた状態や、スロットルを開けた状態でクラッキングしても、火花は飛びません。</p>
スーパーマルチ DN メーターと併用しているが、エンジンチェックランプが点滅しない。	<p>弊社製スーパーマルチ DN メーターの WARNING A/B ランプをエンジンチェックランプとして使用する場合、メーター側の仕様上、キー ON 時の点灯が表示されません。</p>